

毎年が一年生 安定しない天候に備える工夫を!

低温・日照不足は経験を生かして対抗!

生産者通信

NPO法人
米ネーションセンター
定価 100円(送料込)

県内一斉に田植え機のエンジンが快調なエンジン音を響かせています。今月の半ば過ぎには見渡す限り植え付けの終わつた水田が広がるでしょう。今年の稲作の本格的な一歩がはじまりました。

さて、今年の苗の出来具合はいかがだったでしょうか。予想以上に育苗期間の天候は不順でした。寒暖の差が激しすぎて対応が追いつかなかつたのではないかと思えます。自然相手の農業は毎年が新しい経験であり、学ぶことばかりです。

私の播種は4月14日でした。ビニールハウス内の無加温プールは5日ほどで順調に発芽してくれてホッとしたのですが、温度が低いことを心配して緑化シートの除去を遅らせたために下位節間が少し長くなつてしまいました。3.5〜4枚はあります。最悪だったのは、野外

の無加温プールに並べたJAS有機のコシヒカリでした。連日の雨降りでも上がらず、一週間過ぎて芽はほとんど動いていませんでした。とうとう8日目の22日に、ビニールハウスの空きスペースに移動して積み重ね、ビニールシートを覆つて積み重ね出芽に切り替えました。

たまたま農総研が別の目的でデジタル温度計を設置していきましたので気温と地温をいつでも見ることができましたが、苗箱を積み重ねても箱土の温度はそんなに上がるはずはないと思つていたのは大きな間違いでした。朝晩の気温の低い時は覆いのビニール内の気温よりも土中の温度が2〜3度高く、日中の気温は上昇すると土中の温度は5〜6度も高くなつたのです。積み重ねることによる温度の上昇効果は予想外に大きかつたということですね。なぜ箱内の土の温度がそんなに高くなるのか理由は判らなから不思議な現象です。誠に不審な現象です。20段階に積み重ねました。が、上段の箱は3日目には出芽が始まつたので転地返しをおこなないました。



デジタル温度計で気温と苗箱の土の温度を測定

都合で作業が遅れて鞘葉が伸びすぎてしまいました。露地のプールに並べて緑化に移行しました。プールの水を入れてからは、気温の地温の温度差は小さくなりました。

結局、はじめからビニールハウス内で発芽させたものとは葉齢で1葉遅れてしまいました。天候が安定したこともあつて、その後は極めて順調な生育を続けています。

無加温で露地育苗する場合には、積み重ね出芽は充分効果的な技術であることをご存知でしょうか。ハウスの外で積み重ねをおこなつても効果はあると思われまます。

前号で耕耘の時にトラクターが遭難しなければよいのだがと記しました。



モミジガサ

が、悪い予感が当たつてしまったところでは埋まってしまうところでもなりました。中越沖地震以降、地下水の流れが道や地層の表面の変化があちこちでおきているようです。集落内の知人にセミクローラのトラクターをお借りすることになりましたが、「困った時はお互い様」と気持ちよく貸していただき、耕耘と代かきをやることができました。ですが、ありがたいことです。

問題は田植えです。私は田植えが遅いのですが、すでに2回も近所の田植え機の救助に駆けつけています。なにしろ田の表面が破れてしまふと底なし沼のような所です。私の庭節でもあります。



コシアブラ

続きの山でもタラの芽、コシアブラ、ワラビ、シオデ(山アスパラガス)などが採れますが、最近ハマッているものがモミジガサです。面白いことに、モミジガサは猛毒のトリカブトと同じ場所に混じつて生えています。しかも芽を出したばかりの頃はよく似ているのが愛嬌です。普通は酒の肴でしょうが、酒が呑めない私には山菜そのものが主役であり、自然の恵みを心ゆくまで味わっている毎日です。

(写真はいずれも山菜として食用にする時期を過ぎたままになっている。山形の「お鷹ぼつぽ」はコシアブラの木で作られているという。朴の木と似て大木になる。)

(内山常蔵 記)

Agri-s の



農機メンテの部屋

Vol.7

4月20日に柏崎市で越路早生の田植え作業の開始を伝えるニュースが伝わり、各地で田植え作業を迎えていると思われま...

輸入鉄鉱石の値上げ
ブラジル産輸入鉄鉱石の

前年比90%以上の値上のニュースがあり、関連して卸より5月よりハウス関係の資材の大幅値上げ...

鋼材の高騰に伴い小規模メーカから徐々に価格アップのお知らせ・材料高騰が続いて昨年来、値上げを...

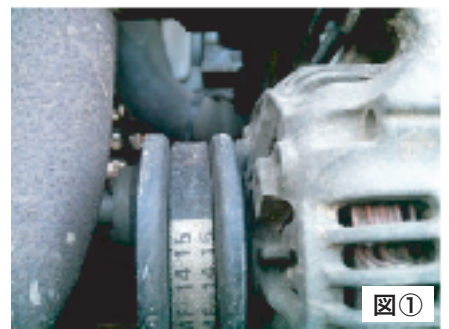
さらに燃料のガソリンも4月25日前には130〜133円だったものが翌日から138円と大幅に値上げされ、地域によつては140円超の所もあるとの事...

きな反響のあった36Vリチウムイオンバッテリーの使用の肩掛け式草刈機の導入も考慮しつつコスト対策を進めてみようと思いま...

草刈機の修理

小型草刈機のトラブルについては、使用始めの古い燃料によるトラブルがほとんどだと思われま...

また、旧式のガソリンタンクがエンジンの上部にあるタイプはタンクに残っている古いガソリンを捨て、エアクリナーの蓋を外し、スポンジをガソリンで洗う...



図①

洗ってから元通りに組み付けて完了です。

次にダイヤフラム型といわれるタイプについて。このタイプは少ないのですが、たまに混合したオイルの比率が高くキャブレター内のゴム製のダイヤフラム等にガム状に付着して始動困難なトラブルを発生する...

トラクタの修理

最近かなりの普及をみるエアコンキャビン付のトラクタでファンベルトの早期摩耗がかなり発生しています。使用前に緩みがないか点検、張り調整をしまし...



図②

う。または、使用後の整備時に交換しておきましょ

図①は、本来ならばベルトの外側とプリーリーの外側がほぼ平らになっている状態だが、ベルトが緩んだまま使用、または自然摩耗にてベルトがプリーリーの底に当たると摩擦した状態。このような状態では高回転時、高負荷時にベルト鳴きの症状がでます。又、発電機の回転が高過ぎの為、電圧異常でトラクタの元になりやすいです。

作業機を駆動するPTOジョイントの破損が散発しています。

図②はグリスアップを怠っていた為、破損したジョイント。これは三年間一度もグリスアップしなかった為クロスジョイントの中間部が破損したものの。残念ながら高額の費用負担となります。最近、非常に増えてきたクロスラ付きのトラクタですが、納品時に作業クローラ部のグリスアップするように説明するも、全くしないか、グリスの注入量が少なすぎの為、車輪部のグリス切れで車輪のベアリング破損、車輪軸のフレームの破損等が散発しています。これらは作業前の点検等でわかる場合もありますが、ほとんどが代掻き作業中の救難要請です。作業中の車輪軸の折損が発生した場合、悲惨なものが待ち受けていますので、くれぐれもグリス注入をたつぷりと行ってください。代掻き作業中の車輪軸の折損でフレームが折れ走行不能になったトラクタを撮りましたが、あまりにも悲惨なので、ここに載せることは止めました。

(Agri-s 記)